

# 学校との連携を目指して － ESDの視点を取り入れた森林環境教育の取組－

近畿中国森林管理局 箕面森林ふれあい推進センター 池田 克司

## 1 課題を取り上げた背景

平成26年11月に、名古屋市において「持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development 略称ESD）に関するユネスコ世界会議」が開催され、このESDが提唱されて10年の成果とこれからの取組について議論され閉幕しました。

この世界会議の併催イベントとして、林野庁主催で「森林環境教育の充実とESDの推進」と題したセミナーが行われ、パネラーとして箕面森林ふれあい推進センターの所長も参加し、箕面における森林環境教育の取組を報告しました。このセミナーでは、「森林・林業に関わる活動には、持続可能な開発の概念が備わっており、森林環境教育をとおして学ぶことで、持続可能な社会を作るための人材育成に繋がる」として、森林環境教育によるESDの推進が提起されました。

また、平成28年5月改正の森林・林業基本計画においても、森林環境教育等の充実の項で、「ESDの取組が進められていることを踏まえ、教育関係者との連携や探求的な学習での森林の活用等、体験・学習する機会の提供などを推進する」との記述がされ、林野庁のHPにも、「森林環境教育の推進」のページで、「森林環境教育とESD」の項目が作られ、森林環境教育において、ESDを意識した取組が求められています。



ユネスコ世界会議併催イベント

## 2 経過

環境教育の事例収集や森林環境教育を行う市民団体等のネットワーク化は、文部科学省、環境省、各府県の教育委員会などで行われており、HPでの優良事例の紹介や発表会も行われていますが、森林をフィールドとした環境教育の事例紹介は、まだまだ少ないのが現状です。さらに、実際には各地で多くの森林環境教育の活動が取り組まれています。森林教室や自然観察・木工クラブなど、体験を主体とした行事も多く、森林が持つ持続可能性や生物多様性、人の暮らしと持続的な関わりや文化的な側面など、森林が持つ「持続可能な開発」に繋がる側面を活かしきれていないと感じていました。

このため、活動団体に、ESDの視点・考え方を意識してもらうことで、森林環境教育が探求的なものとなり、教育機関との連携など、活動がより広がるのではとの思いを持ちました。

また、教育現場では、「生きる力」を育成するため「主体的・対話的で深い学び」に取り組むとしており、体験から学ぶ場として森林を活用した環境教育が適していることを知ってもらうため、多様な事例の収集が必要と考えました。

当センターが箕面市の教員を対象として平成16年度から取り組んでいる森林環境教育教員研修の

教員アンケート結果からは、教員の意見は、「森林環境教育は必要であると理解した」「条件を考えなければ実施したい」との回答が常に9割を超えている半面、現実としては「実施することは難しい」との回答になっており、理由は「授業時間の確保が難しい」「企画案の作成が難しい」「指導する技術がない」などとなっています。教員にとって森林環境教育の必要性は理解しても、実際に授業に取り入れていくにはハードルが高いものとなっています。

また、学校との連携を望んでいる団体は「話をしてもなかなか受け入れてもらえない」「どのようにアプローチをすればよいかわからない」などの悩みを持ち、どのようにすれば学校と活動団体が連携できるのかを考えていく必要がありました。

そこで「森林環境教育をとおして学ぶことで、持続可能な社会を作るための人材育成に繋がる」ということを実践していくため、活動団体と教育機関との連携を考えるきっかけとなる場を企画することを考えました。

### 3 取組結果

平成28年1月25日に初めて企画した森林環境教育（森林ESD）活動報告・意見交換会では、「森林を活用した森林環境教育を実践している団体等の活動報告」の実践事例を募集し、応募のあった14団体が発表を行い、42団体84名が参加しました。

発表した14団体の内訳は、NPO等8団体、企業関係3社の他、教育委員会、高等学校、森林インストラクター会などバラエティに富んだ団体が集まりました。また、発表も森林での体験・学習活動だけでなく、大学生が指導者として成長していくことを伝えたり、山から海までの関わりを学ぶもの、里山の恵みから学ぶもの、水源としての森林に重点を置いたものなど、多様な活動が報告されました。

アンケート結果からは、「ESDへの理解が深まった」「今後の活動に役立つ」と8割を超える回答を得たことや「ESDの視点を活動に取り入れたい」と5割近い回答を得るなど、森林ESDの普及に繋がるものとなりました。次期開催への要望も多く、学校との連携や先生との意見交換の場を求める声が出されていました。

平成28年度に2回目を企画するにあたり、参加者の意見を踏まえ、教育機関と活動団体の連携を促進することに目的を絞り、学習指導要領改訂のタイミングでもあったことを意識して、内容を検討しました。

新しい学習指導要領では、「生きる力」を育むため、問題解決型、参加体験型の学習が重視され、課題の発見・解決に向けた「主体的・対話的で深い学び」を重視してい



H28. 1. 25第1回イベントチラシ



活動報告(第2回H29. 1. 28)



H29. 1. 28第2回チラシ



要領の視点などから活動の分析をしてもらい、「森林環境教育（森林ESD）プログラム分析シート」にまとめてもらいました。この分析シートの作成にあたっては、京都教育大学の山下宏文教授の指導を受けながら、2年をかけて項目を整理して作ることが出来ました。

この分析シートでは、特にESDの視点で見つめ直すとの趣旨から、ESDで重視する能力・態度の7項目を示し、活動をこれらの項目に沿って分析してもらいました。

発表団体からは、「ESDの視点によって自分たちの活動の足りない部分が明確となった」「これらの視点を持つことの必要性を感じた」「これまで独自に森林環境教育を実施してきたが、学校との連携を意識するようになった」「学校にアプローチをしてみようと思った」「他団体のシート内容が参考になった」との意見が出され、体験だけで終わらない学習プログラムとして考えていくことの必要性や森林環境教育の視点、ESDの考え方について理解を深めるものとなりました。

「森林環境教育をとおして学ぶことで、持続可能な社会を作るための人材育成に繋がる」ということを実践するために取り組んだ2回の成果について整理すると、

#### **活動団体としては、**

1. ESDや学習指導要領について知るとともに、実践事例を分析シートで分析することで、「持続可能な社会を作る」という視点を持つことの必要性を認識し、

◎「ESDと学習指導要領の視点から活動を見つめ直すことができたこと」

そして、活動団体・教育関係とも、

2. ESDの視点を含む分析シートによる分析によって、自分たちの活動の足りない部分が明確となったことや、他団体の分析シートから学んだことで、今後の活動の方向を検討するきっかけとなったことなど

◎「活動の中で足りなかった方向性や活動の視点を知ることができたこと」

3. 森林環境教育は、持続可能な社会づくりの人材育成の場に適していることや新しい学習指導要領で示されている深い学びの実践の場となることを知ることで、

◎「森林を活用した学習が、探求的な学習プログラムとなることを知る事ができたこと」

4. 活動の成果をESDの視点などで示すことで理解が深まることや、学校との連携を意識したり、アプローチをしてみようとの意識が生まれたこと。また、先生からサポートが必要との意見を聞いたり、学校と地域団体が連携して取り組む地域学校協働活動の仕組みを作ろうとしていることなどを知ったことで、

◎「学校・先生と活動団体との連携を図るための手掛かりを知ることができたこと」

などが、取り組みの成果であったと考えています。

そして、箕面森林ふれあい推進センターでは、2年間の森林環境教育の実践事例をまとめた事例集を作成し、冊子での配布とHPへの掲載を行い、成果の普及・活用を図っています。

また、この取り組みにあたって、1回目は環境省や大阪府の関係機関と共催し、2回目は国土緑化推進機構及び近畿の環境系NPO団体等をまとめるエコネット近畿と共催したことと、文部科学省の後援を受けたことで、森林管理局関係だけでなく多様な活動団体や教育関係者が集まり、様々な活動事例の発表や参加者同士の多くの交流が生まれました。そして、こうした学び・交流の場を続

けてほしいとの意見が多くありました。

#### 4 今後の取組

第3回を平成30年1月27日に計画しており、今年度の取り組みにあたっては、平成30年度から新学習指導要領が反映される幼稚園などの幼児教育にも視点をあてて、幼児教育との連携と小学校以上での連携の取組事例を募集しました。8事例12団体の発表が決まり、幼児期での森林体験についても、新たな学びと活動団体の交流が深まる機会になればと考えています。

そして、森林環境教育の実践を活動の柱に持つ箕面森林ふれあい推進センターが、森林環境教育の実践と森林ESDの普及・情報発信、森林で活動する団体にとっての学び・交流の拠点のひとつと認識してもらえるように、これからも取り組んでいきます。



H28, H29発表事例の活動箇所マップ

平成29年度  
**森林環境教育  
(森林ESD)  
活動報告・意見交換会**

日時:平成30年1月27日(土)  
10時~18時  
会場:近畿中国森林管理局 大会議室  
(大阪市北区天満橋 1-8-75)

講演及び活動報告団体等		
<p><b>講演</b></p> <p>①過去2回の取組成果と年代をつなぐ森林ESDの取組の視点 講師 京都教育大学 教授 山下 聖文 氏</p> <p>②幼児教育における森林体験学習 講師 NPO法人森のようちんかん全国ネットワーク重慶 理事長 内田 幸一 氏</p> <p>③幼稚園教育要領、保育所保育指針、学習指導要領の改訂と森林ESD 講師 公益社団法人 国土緑化推進機構 就業企画部長 木俣 知大 氏</p> <p><b>パネルディスカッション</b> 司会・進行 金井 久美子 氏 (新緑緑化センター専任理事)</p>	<p><b>活動報告</b> 8事例・12団体</p> <p>① 橋本市立清水小学校 (和歌山県) 橋本ひだまり倶楽部</p> <p>② 社会福祉法人 嗣陽会すみだこども園 (和歌山県) 橋本ひだまり倶楽部</p> <p>③ 吉野町立わかほけこども園 (奈良県) 吉野町教育委員会、森林インストラクター (連絡先:吉野町内小中学校)</p> <p>④ 森のようちんかん・ナチュラ (奈良県) 明日香森林環境教育フィールド「Forest River」</p> <p>⑤ 森のようちんかん ことこと (岡山県) (連絡先:木こりの会)</p> <p>⑥ 土地に根ざした学びの場・まるやま組 (石川県) (連絡先:輪島市立三井小学校)</p> <p>⑦ 公益社団法人 京都市保育推進室 八瀬野外保育センター (京都府) (連絡先:京都市内の保育園・幼稚園)</p> <p>⑧ 美田市立止々呂美小学校 (大阪府) (連絡先:NPO法人 とどろみの森クラブ)</p>	
<p>参加希望の方はHPよりお申し込みください <a href="http://www.rinyumelf.jp/kinki/minoo.fc/">http://www.rinyumelf.jp/kinki/minoo.fc/</a></p> <p><b>箕面森林ふれあい推進センター</b> 問合せ先 TEL050-3160-6727</p>		
<p>☆「小学校教科書、森林・林業に関する副読本等の展示」を会場内で行ないます ☆</p>		
<p>主催 近畿中国森林管理局 箕面森林ふれあい推進センター 〒156-8502 大阪市北区天満橋 1-8-75 TEL050-3160-6727 FAX050-4881-3613 E-mail:kn_forest@rinyumelf.jp</p>	<p>共催 公益社団法人 国土緑化推進機構 特定非営利活動法人 近畿圏森林公園建設推進センター (NPO法人 エコネット重慶)</p>	<p>協賛 大阪府庁、近畿圏森林公園推進オフィス (国土緑化推進機構) 大阪府、国立大学法人 京都大学、大阪府立大学、大阪府立大学 全国森林少年団連盟、京都府森林環境推進センター NPO法人 森のようちんかん全国ネットワーク重慶</p>

H30.1.27第3回イベントチラシ